MGU Chapel Letter

—第 30 号　2023 年 10 月 20 日—　　発行：大学宗教センター

＊2023 年度聖句＊

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、
行わせておられるのは神であるからです。」
フィリピの信徒への手紙　2 章 13 節

10 月 31 日は宗教改革記念日！

佐々木哲夫学院長によるキリスト教講座のご案内

10 月 31 日は宗教改革記念日です。1517 年のこの日、ドイツの神学者マルティン・ルターが、教会の贖宥状販売に抗議する「95 か条の論題」をヴィッテンベルクの教会の扉に打ち付け、これをもって宗教改革が始まった…という話は有名です。本当に扉に掲示したのかどうかは、実は歴史家の間でも諸説があるようですが、世界史の転換がこの時に始まったことは確かですね。プロテスタントの学校の一員としてこの日を覚え、ルターの熱い信仰と勇気を偲びたいです。

それに伴い、31 日（火）14 時 40 分～15 時 40 分に、礼拝堂 2 階のヴェリタスにおいてキリスト教講座が行われます。講師は佐々木哲夫学院長・宗教総主事、テーマは「『聖書のみ』とは？」です。

宗教改革の大原則は「信仰のみ Sola Fide（信仰義認）」と「聖書のみ Sola Scriptura」ですが、後者の重要性とは何でしょうか。佐々木先生がそのエッセンスを説明して下さる予定です。どなたでも参加できますので、ぜひお越し下さい。事前申し込み等は不要です。

ドイツ、ゲッティンゲンの教会

▼　QA コーナー　▼

ハロウィンはキリスト教のお祭りですか？

答え：　直接的には NO です。

ハロウィンは、古代ケルト民族（アイルランドなどの人々）が行っていたサムハインという収穫祝いの祭りから来ています。冬の始まりを告げる、季節の境目の日でもありました。なので、キリスト教の祝祭ではないですね。

ただし、関係している部分もあります。中世の教会では、この日に続く 11 月 1 日と 2 日は、死者のことを覚えて祈る日（万聖節・万霊節）としていました。日本のお盆のような感じです。「ハロウィン」という言葉も、「All Hallows' Eve　万聖節の前夜」から来ています。そのために、この夜が死者（＝幽霊）と結びつけられた面があります。

お化けの仮装をしたりお菓子をもらい歩く習慣は、19 世紀にアメリカで広まった遊びです。日本では、ここ 20 年ほどの間にポピュラーになりました。　　（栗）

✚　点灯式・大学クリスマス礼拝のご案内　✚

クリスマスまでまだ 2 か月ありますが、行事予定を確認しておきましょう。

☆ クリスマス・イルミネーション点灯式

日時：　11 月 13 日（月）16 時 30 分～17 時

場所：　礼拝堂（点灯の際にはベルタワー前に移動）

メッセージ：　大久保直樹先生（中高宗教主事）

奏楽：　三友安紀子さん　（大学音楽科副手）

☆ 大学・大学院クリスマス礼拝

日時：　12 月 7 日（木）：16 時 20 分～17 時 50 分

場所：　礼拝堂

メッセージ：　川島堅二先生（東北学院大学文学部教授）

奏楽：　戸田彩子先生（オルガニスト）

✤ 剣を鋤に、槍を鎌に ✤

ウクライナに引き続いて、今度はイスラエルでも悲惨な紛争が始まりました。家族を失って泣き叫ぶ人々、破壊された町などの映像を見ていると、「どうして戦争をする人がいるのか。なぜ、彼らは過去の経験から学ばないのか」と怒りをおぼえます。

しかし、戦争のことを、「自分たちと違う『彼ら』」がしていることのように思うのなら、それは間違いでしょう。1 人の人間の心の中にも、葛藤や争いがあります。自分自身のことすら、受け入れられないことがあるのです。2 人の人が理解し合い、共に生きるには、更に大きな努力を要します。グループになればなおさらでしょう。そうしたモヤモヤだらけの人間が集まっているものが国家である以上、国同士で紛争が起きてもおかしくありません。戦争の種は、元をたどれば私たち 1 人ひとりの中にあるのです。

旧約聖書のイザヤ書 2 章には、平和について語った有名な言葉があります。「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家（注：イスラエル民族）よ、主の光の中を歩もう。」（4－5 節）　「剣を鋤に、槍を鎌に」とあります。人を殺す武器を溶かして農具にしよう、共に生きるための食物を生み出す道具に変えよう、それが神の望みだというのです。

私たちにとって、「剣・槍」は何でしょう。「鋤・鎌」は何を示しているでしょうか。私たちは気づかないうちに、むだに自分自身や他者を傷つけるような考え方や生き方をしていることがあります。どうすれば自分の「剣・槍」的な行動を手放して、互いの命を豊かにするような生き方、「鋤・鎌」に変えて行くことができるでしょうか。そのことを考えることは、平和を作るための第一歩となります。

「アブネルはヨアブに呼びかけて言った。『いつまで剣の餌食とし合うのか。悲惨な結果になることを知らぬわけではあるまい。』」（サムエル記下 2 章 26 節）　戦い合うことのむなしさを認めた、古代イスラエルの武将の言葉です。他者と支え合う世界を築くために自分に何ができるのか、真剣に模索して行きましょう。　（栗）

【連絡先】　宮城学院キリスト教センター
TEL：022-279-9558　　Email：christ-c@mgu.ac.jp